和文抄録

野球投動作から陸上競技やり投への投動作トランスファーに関する研究

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119031
氏　名：谷場　雅之

【目的】

我が国における世界で活躍している陸上競技男子やり投競技者の殆どは，野球出身である事から，技術的な類似点や相違点を明らかにし，野球からやり投へトランスファーする競技者における技術改善に資する知見を得る事を目的とした.

【方法】

男子やり投競技者３名，男子野球競技者４名の合計７名を対象とした.
実験試技は，野球群は野球ボールの遠投・速投動作，やり投群は野球ボールの遠投・速投動作及びやり投クロス投げ動作を実施した.

【結果】

(1) やり投動作準備局面において，肘関節屈曲伸展角度は伸展位であったのに対し，野球の遠投及び速投動作は屈曲位であった.
(2) やり投動作と野球の遠投動作では，野球の速投動作よりも投射角度は大きく，投射高は高かった.
(3) 速投動作における各項目においては，両群間で有意な差は認められなかった.

【結論】

トランスファーする際にやり投動作では準備局面での右肘関節屈曲伸展角度の伸展位保持技術が求められると示唆された.

やり投動作と野球の遠投動作は投射角及び投射高が野球の速投に比べると類似している事が示唆された.

やり投動作では，野球の投動作とは異なる助走やクロスステップの局面が存在するため，それらの動作の習得も必要であると推察された.